

令和4年度 国府まちづくりセンターの主な取組

事業名

新しいことはじめてみよう～竹灯籠・朝市出店～

P

●事業実施に至った背景、目的

- ・国府の資源を活用し、ものづくり体験を通して世代交流を図る。
- ・今後地域でも活動していく人材を育成する。
- ・交流の場としての「こくふ朝市」、さらに多世代住民の関わる事業にしたい。

●事業を実施するまでの過程(関係機関との打ち合わせ等)

(竹灯籠)…昨年度からものづくりに興味のある住民に声がけし、資材調達やワークショップ開催に向けて協議。(令和4年7月～)

(朝市出店)…小学6年児童に向けて、呼びかけを行う。(令和4年6月)
朝市出店のための会議・創作活動開始(令和4年7月～)

D

●事業の概要

★竹灯籠

- ①ワークショップ
→夏休みに創作活動実施。
- ②ワークショップ(他センターで実施)
→開催協力依頼を受け、講師派遣。
- ③ワークショップ
→大きな作品作りに挑戦。

地域の方が講師となって活動していくために、負担に感じないように少しずつ活動内容をステップアップさせていく。



★こくふ朝市出店

「自分たちで考え活動しよう」をコンセプトに朝市出店計画を立て、実践していく。

- ・販売物(手作り雑貨、お菓子)を決め、作る。
- ・レシピ検索
- ・チラシの作成
- ・SNSを活用し広報活動
- ・朝市での販売

継続して出店していくことで収益も増え、同時に保護者世代が朝市に来てくれるようになる。

Shell

←グループ名もロゴデザインも子どもたちのアイディア

C

●事業実施後の振り返り

- ・講師となった地域の方は、ものづくりをきっかけに更に趣味の幅を広げ、地元の文化祭に初めて出展するなど、地域での活動にも参加されるようになった。
- ・9～2月の朝市(5回)出店。回を重ねるごとに買い物客にも認知され、児童らのモチベーションも上がっていった。SNSを見て来てくれた方や保護者世代も多く朝市に来てくれるようになった。

A

●令和5年度以降の方向性

- ・地域の方が中心になって事業が出来るように、センター職員はサポートにまわり、さらに地域で活動が出来る人材の育成に関わっていきたいと思う。こくふ朝市が買い物をするだけでなく、多世代多地域との交流の場になっていくために今後も様々な工夫を考えていきたい。



こくふ朝市『shell』

- ・シークラス写真立て
 - ・クッキー
 - ・宝石石鹸
 - ・スイートポテト
 - ・ガトーショコラ
 - ・アイシングビスケット
- 毎回好評で完売です!

竹灯籠 WS

竹の採集からWSの講師も地域の方が担っています。2mの竹灯籠はセンター入口に設置しています。

